

ガラム型世論力学モデルの新種エージェントについて

1160240 濱田祐輔

On new agent types in Galam model of opinion dynamics

Hamada Yusuke

今日の社会では物事を決定する際に、多数決という技法を用いる。それは組織の大小、グループ人数の多い、少ないに関係なく用いられる。その代表的な例が選挙である。選挙では根強い少数意見に左右されることがある。この選挙に着目し、シミュレーションを試みたのが世論力学モデルである。世論力学モデルにおいて根強い少数意見の役割として、以下の2つがある。「自分の意見を決して曲げない固執型」、「賛否の少ない意見に加担する反発型」である。上記2つの割合が多くなれば多くなるほど意思決定の結果に大きな偏りが生じる。本研究ではひとまず反発型は忘れて、固執型と「他人の意見を必ず自分の意見にする絶対型」を追加した。なお本研究の絶対型は、同タイプの固執型を用いるとほんの少しの割合だけで賛成に偏ることが明白なので、対立するタイプの固執型を用いる。すると固執型の影響を受けながらも、絶対型が増えるに従って全て賛成に偏ることが判明した。また、絶対型が持つ忠誠力が変化することによって賛成への偏りが変化することも判明した。